

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-64C	12-131	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Alcohol drinking and endometrial cancer risk in the European Prospective Investigation into Cancer and Nutrition (EPIC) study. 飲酒と子宮内膜癌：癌と栄養に関するヨーロッパ前向き研究 (EPIC)		
執筆者		
Fedirko V, Jenab M, Rinaldi S, Biessy C, Allen NE, Dossus L, et al.		
掲載誌		
Ann Epidemiol. 2013 Feb;23(2):93-8.		
キーワード		
子宮内膜新生物 (癌)、アルコール、コホート研究、西ヨーロッパ		
要 旨		
目的： 飲酒は、内因性の性ホルモンに悪影響を及ぼすことで子宮内膜癌のリスク上昇に関与している可能性がある。しかしながら既存の疫学研究からは一定の結論が得られていない。そこで、大規模多施設前向き研究で飲酒と子宮内膜癌との関連を検討した。		
方法： 1992年から2010年にかけて “the European Prospective Investigation into Cancer and Nutrition” (癌と栄養に関するヨーロッパ前向き研究：EPIC)参加女性301,051人を対象に、子宮内膜癌発症に関する追跡調査を行った。発症数は1,382名。妥当性検討のなされた各国別食事質問票を用いて初回調査時の飲酒量を調査した。過去飲酒量は生活習慣質問票を用いた。ハザード比 (HR) 及び 95%信頼区間 (95%CI) はコックス比例ハザードモデルより求めた。		
結果： 軽度飲酒者 (初回調査時アルコール0.1 - 6 g/日) に比べると、0 g/日、6.1 - 12 g/日、12.1 - 24 g/日、24.1 - 36 g/日、>36 g/日の群の多変量調整 HR (95%CI) はそれぞれ 1.03 (0.88-1.20)、1.01 (0.86-1.17)、1.03 (0.87-1.22)、1.07 (0.87-1.38)、0.85 (0.61-1.18) であった (傾向 P=0.77)。過去飲酒者に関しては関連を認めなかった (軽度飲酒者と比較して HR, 1.28; 95%CI 0.98-1.68)。また 20 歳時点での飲酒量、生涯を通じての飲酒パターン、特定のアルコール飲料のいずれにおいても子宮内膜癌との関連は認めなかった。		
結論： 本研究の結果からは、飲酒と子宮内膜癌の間には関連を認めなかった。		